

旅館に木質ボイラー

あわら三国協3カ所目稼働

12.5/18
福井(22)

あわら、坂井両市で具

カ所目。

産間伐材などを使い熱エネルギー利用を推進するあわら三国木質バイオマスエネルギー事業協議会は17日、あわら市の温泉旅館「美松」に設置した木質バイオマスボイラーの稼働セレモニーを、同旅館に隣接する施設で開いた。

同協議会によるボイラー稼働は同市のグランディア芳泉、坂井市の三国観光ホテルに続き県内3

敷地約2246平方メートルに鉄骨平屋建て約244平方メートルのサイロとボイラー室を建設。日本初導入となる出力300キロワットのオーストリア製ボイラーを2基設置した。サイロは地上式でチップ約150立方メートルが貯蔵できる。

坂井森林組合が生産する杉間伐材チップを使用し、大浴場や客室の給湯、個室露天風呂の温度を上げる熱源などに利用す

る。年間約28万リットルの重油削減と、年800〜850トンの二酸化炭素削減を想定している。ボイラーの稼働や監視は遠隔操作で行い、燃料供給も同協議会が担う。



導入された木質バイオマスチップサイロとボイラーの設備＝17日、あわら市舟津のあわら温泉美松

を進めていきたい」などとあいさつ。参加者が施設を見学した。

同協議会は林野庁との実証事業として2014年度から同事業に取り組んでおり、ことしが最終年度となる。年度内に協議会を母体とした熱供給会社を設立し17年度からエネルギーを販売する予定。
(増田智佳子)

H28. 5. 18. 早民(4)

間伐材チップボイラー稼働

あわら 温泉旅館「美松」の熱源



温泉旅館「美松」の熱源として稼働した木質チップボイラー施設＝あわら市舟津で

あわら、坂井両市内で間伐されたスギのチップを燃料にした木質チップボイラー施設があわら市舟津に完成し十七日、隣接する温泉旅館「美松」の客室給湯などの熱源として稼働を開始した。関係者六十人が出席して式典があり、地産地消の熱エネルギー供給システムの稼働を祝った。

施設は鉄骨平屋二百四十四平方メートルで、外国製ボイラー二基（出力計六百キロワット）と

百五十立方メートルのチップサイロを備える。坂井森林組合が供給する間伐材チップを燃やした熱で、同旅館が使用してきた重油や灯油、ガスなどの化石燃料をほぼ代替する。年間推定で、チップ使用量は千五百〜千二百ト、重油削減量は約二十八万リットル、CO₂削減量は八百〜八百五十トとしている。

バイオマスを使った発熱供給を行う環境省と林野庁の実証事業として、マルツ

組合、両市内の旅館やホテルなど約三十団体でつくる「あわら三国木質バイオマスエネルギー事業協議会」が設置。稼働監視や燃料供給も行う。

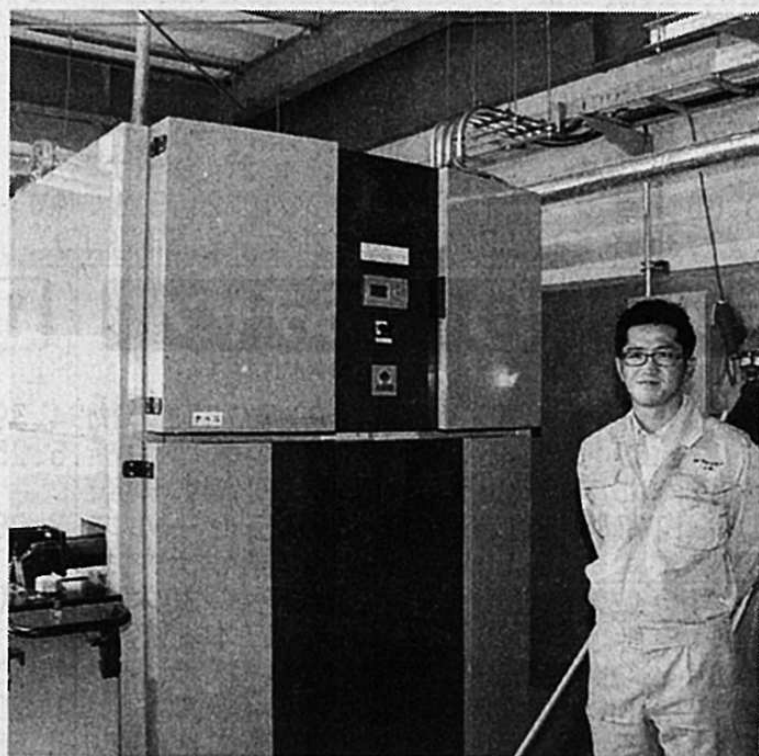
同協議会のボイラー施設は三方所目で、今後は協議会の企業メンバーを中心に来年三月までに熱供給企業を設立する方針。

（中田誠司）

あわら温泉の温泉旅館「美松」（福井県あわら市）で17日、木質チップを燃やして発熱する木質バイオマスボイラー稼働した。従来は重油ボイラーで風呂の温度調整や給湯の熱源にしていたが、今後はこのボイラーで全てまかなう。チップは地元の間伐材でつくる。年間800〜850トンの二酸化炭素（CO₂）排出量の削減効果があるという。

ボイラーを設置したのは、あわら市や坂井市、

あわら温泉の旅館



木質チップを燃やして熱を生み出す
（福井県あわら市の旅館「美松」）

428.5-18
A経(31)

木質バイオマス使い給湯

地元の企業などで行く スエネルギー事業協議会
あわら三国木質バイオマ（福井市）。林野庁の実

地元の間伐材活用

CO₂排出量削減効果

証実験に採択されており設置費用と当面の使用料は協議会が負担する。

協議会は福井県の間伐材などを使った熱エネルギーの活動を後押しする活動を進めている。これまで県内2つの宿泊施設に同様のボイラーを設置し実証実験を行ってきたが、今回で最後になる。

今年度末に会社を設立し、県内の事業者を中心に木質バイオマスボイラーによる熱供給事業を始める方針。設立後は宿泊施設から使用料を取る。